

VMware Workspace ONE: Skills for UEM (VMware Workspace ONE: UEM で必要なスキル)

コースについて

この 3 日間のコースでは、VMware Workspace ONE® を使用したインテリジェンスベースのマルチプラットフォーム エンドポイント管理ソリューションの起動や維持管理のための基本的な技術の応用方法を学習します。ハンズオン ラボ、シミュレーション、対話型の講義を通じて、エンドポイント ライフサイクルを構成および管理します。3 日後には、VMware Workspace ONE® UEM の効果的な実装についての基本的な知識を身に付けることができます。

コースの目標

このコースを修了すると、次のことができるようになります。

- Workspace ONE UEM で実現される全般的な特徴や機能について説明する
- 必須の Workspace ONE 管理機能について説明する
- 一般的な Workspace ONE の統合を理解および実装する
- Workspace ONE UEM とディレクトリ サービスの連携について説明する
- Workspace ONE エッジ サービスを説明し導入する
- Workspace ONE UEM にデバイス エンドポイントをオンボーディングする
- UEM で管理されたデバイスに構成を安全に導入する
- 環境と多量のデバイスの健全性を維持する
- UEM で管理されたデバイスにアプリケーションを導入する
- Workspace ONE UEM 環境を分析する

対象者

Workspace ONE UEM の運用担当者および管理者、アカウント マネージャ、ソリューション アーキテクト、ソリューション エンジニア、セールス エンジニア、コンサルタント

前提条件

このコースに前提条件はありません。

受講方法

- 教室開催
- ライブ オンライン
- [一社様向けオンサイトトレーニング](#)
- [オンデマンド](#)

コースのモジュール

1 コースについて

- 概要およびコースの流れ
- コースの目標

2 プラットフォーム アーキテクチャ

- Workspace ONE UEM の特長と機能を説明する
- Workspace ONE UEM を活用するメリットを概説する
- Workspace ONE UEM プラットフォームを構成するコアコンポーネントおよび業務コンポーネントを認識する

3 管理

- Workspace ONE Hub サービスの特徴や機能について説明する
- 階層的な管理構造について理解する
- Workspace ONE UEM Console を操作およびカスタマイズする
- アカウント オプションと権限を概説する

4 エンタープライズ システムとの連携

- ディレクトリ サービスと連携するプロセスと必要性について概説する
- Workspace ONE での証明書の認証と実装について説明する
- Workspace ONE UEM Console に E メール SMTP サービスを組み込むメリットについて説明する

5 オンボーディング

- 管理用のデバイスをオンボーディングするための Workspace ONE UEM 環境での前提条件の構成を概説する
- Workspace ONE UEM Console での自動検出を設定する手順を概説する
- Workspace ONE Intelligent Hub アプリケーションを介してエンドポイントを加入させる
- プラットフォームのオンボーディング オプションについて理解する

6 エンドポイントの管理

- デバイス プロファイルとユーザー プロファイルの違いについて説明する
- Windows 10 と macOS のポリシー管理オプションについて説明する

7 代替管理方法

- デバイスのステージングの機能とメリットについて説明する
- Workspace ONE UEM Console で製品プロビジョニングを構成する
- Workspace ONE Launcher 構成を Android デバイスに導入するメリットを理解する

8 アプリケーション

- Workspace ONE UEM におけるアプリケーション管理の特徴、メリット、機能について説明する
- Workspace ONE UEM Console での公開、内部、および有料のアプリケーションの導入設定を理解して構成する
- Apple Business Manager コンテンツ統合を使用するメリットを理解する
- サーバとクライアント間のソフトウェア配信を使用するメリットについて説明する
- Workspace ONE SDK の機能とメリットをリストする

9 デバイスの E メール

- Workspace ONE UEM でサポートされている E メールクライアントについて理解する
- Workspace ONE UEM Console で Exchange ActiveSync (EAS) プロファイルを構成する
- Workspace ONE® Boxer の設定を構成する
- 使用可能な E メール インフラストラクチャ統合モデルを概説し、そのワークフローについて説明する

10 コンテンツ共有

- Content Gateway と Content Gateway ワークフローを使用するメリットについて説明する
- コンテンツリポジトリを Workspace ONE UEM と統合するメリットを理解する
- Workspace ONE UEM Console でリポジトリを構成する

11 メンテナンス

- メンテナンスをサポートするコンソール ツールを特定する
- 順守ポリシーを実装して環境のセキュリティを保護する方法を分析する
- Workspace ONE Assist で実現される特徴や機能を概説する

12 インテリジェンスと自動化

- Workspace ONE Intelligence で実現される機能を概説する
- 自動化について理解し、導入する
- 順守ポリシーを使用する機能とメリットについて説明する
- Freestyle Orchestrator のユースケースについて説明し、Freestyle ワークフローについて理解する
- センサーおよびスクリプトの機能と、それらを作成する手順を概説する

お問い合わせ

このコースに関するご質問や登録方法については、
japan-education@vmware.com までお問い合わせ
ください。



ヴァイエムウェア株式会社 〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1 田町ステーションタワーN 18 階 www.vmware.com/jp

© 2021 VMware, Inc. All rights reserved. 本製品またはワークショップ資料は、米国および国際的著作権法および知的財産法によって保護されています。VMware 製品は、<https://www.vmware.com/download/patents.html> のリストに表示されている 1 件または複数の特許対象です。VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

VMware は、一般的に認められている業界基準と慣例を使用して妥当な方法で、ここで記載されているワークショップ サービスを提供することを保証します。上記明示保証は、VMware が提供するサービスおよび成果物、ならびにそれらのサービスおよび成果物から得られる結果に関する、明示、黙示、法定、その他のあらゆる保証（商品性に対する黙示保証および特定目的に対する適合性の黙示保証を含みます）に代わるものです。VMware は、お客様に対して特定または参照した、いかなる第三者のサービスまたは製品に対しても責任を負いません。本ワークショップにおいて提供される資料（以下「ワークショップ資料」といいます）の著作権は VMware に帰属します。VMware は、お客様が許諾を受けた VMware 製品についての社内での理解、利用、運用を促進する目的に厳に限定して本ワークショップのお客様にワークショップ資料の使用および合理的な範囲でコピーを作成することを許諾します。前述の明示された場合を除き、本ワークショップの条件の下で許諾された知的財産権およびその他のいかなる許諾された権利を他者に譲渡することを禁止します。米国内のお客様の場合、サービスに関する VMware の契約当事者は、VMware, Inc. になります。米国外のお客様の場合、サービスに関する VMware の契約当事者は、VMware International Limited になります。